

桜蔭俳話会 十二月句会 (第三六一回)

平成二十九年十二月二十四日(日)

【鑑賞句】

極月やゴミ集積場のぬひぐるみ

才美

灯油売る声をかき消す空つ風

明美

十二月亡夫と語る誕生日

かほる

ラジオからリリー・マルレーン聖菓剪る

才美

逆光の枯山の色謎めくや

ヤエ子

蜜柑山輝く海へなだれけり

友子

枯茨ひとに迷惑かけて死ぬ

眞壽

【自句自解】

人類に冬眠はなし戦場へ

守

霊長類ヒト科に分類される人類は、地球上で最も醜悪な動物である。冬眠もせず戦争に向かう。「愛国」という美名のもとに同胞を戦場に駆り立てる。武器を日々改良するのは、知恵を持った不幸の故なのか。

【添削句】

【原句】 冬の川磁気逆転のチバニアン かほる

【理由】 「磁気逆転」は「チバニアン」の説明。どちらか一方にする。

【添削案】 冬の河磁気逆転の河床かな

【原句】 からくり人形のカタコト運びきなこ餅 幸
【理由】 「からくり」の人形であることは「カタコト運び」で理解できる。言葉の整理。

【添削案】 人形のカタコト来たりきなこ餅

【原句】 霜月や祝は無けど誕生日 直子

【理由】 中七の言い方が強過ぎるか。

【添削案】 霜月やこころに秘めし誕生日

【原句】 亡き人の住所消し去る年の暮 眞壽

【理由】 喪中葉書の整理は年賀状書きの前処理。所録から消しても記憶から消えない人もいる。

【添削案】 記憶から消えざる一人年の暮

【原句】 十二月八日朝餉のミルク人肌 才美
【理由】 朝餉は余分な情報か。

【添削案】 人肌のミルク一杯開戦日

【原句】 横向きの理容看板クリスマス かほる

【理由】 言葉の整理

【添削案】 理髪屋の看板横にクリスマス

【原句】 冬の朝カラス相手の不毛戦 かほる

【理由】 言葉と季語の整理

【添削案】 戦いの不毛なりしや寒鴉

【原句】 ならひ吹くドア取替への鍵 かほる

【理由】 風は本来的に吹くものであるから、「吹く」は省くこと。

【添削案】 北風やドア取替への鍵六つ

【原句】 色ついた庭の蜜柑や食べ頃か 直子

【理由】 原因と結果を並べた句は避ける。

【添削案】 色づきし庭の蜜柑や日に遊ぶ

【原句】 年賀状書き終え一息酒饅頭 邦子

【理由】 言葉と季語の整理

【添削案】 一息の酒饅頭や賀状書く

【原句】 冬空や歎異抄で我学ぶ 直子

【理由】 「教典又はこれに近い書物」と「学ぶ」は重ねない。

【添削案】 冬の夜や一人開きし歎異抄

【原句】 引き起こす冬眠蛙の庭畑 幸

【理由】 字数に注意する。

【添削案】 掘り起こす冬眠蛙の先

【原句】 消雪の水音ばかり越後の夜 ヤエ子

【理由】 「雪」と「越後」の重なりは避ける。

【添削案】 消雪の音貫ける夜陰かな

【原句】 冬ざれや就活スーツ綻びる かほる

【理由】 事実としても、「冬ざれ」と「綻びる」が同方向の言葉である。

【添削案】 小春日や就活スーツ綻びし

【原句】 この町内年寄りばかり大掃除 直子

【理由】 指示代名詞は出来るだけ使用しない。

【添削案】 町内は年寄りばかり大掃除

(文責 代表 増田守 欠席投句 古野明美、
稲葉幸)